

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101532		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム アンジュ 2Fつばきユニット		
所在地	島根県松江市西津田4丁目7-18		
自己評価作成日	令和4年11月27日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和4年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員は普段の関わりから、利用者一人ひとりの理解を深め、その方の性格や生活歴にも注目し、施設の中で居心地よく過ごせるよう日々のケアを実践しています。また、ご家族の方とも連絡を取り合い、関係性を築きながら、コロナ禍でも安心していただけるよう取り組んでいます。
 ・新型コロナウイルスの影響で、様々なことに制限をしないといけない状況ではありますが、制限された生活の中でも、利用者が「その人」らしく、生き活きと生活できるよう個々の支援に努めています。
 ・利用者の高齢化、重度化に伴い、看取り介護を行うケースも増えています。協力医と連携を図り、ご家族の方とも密に話し合いながら、「その人」らしい最期を迎えられるよう、職員全体で寄り添う姿勢を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町中の平坦な場所にあり、周辺には事業所や集合住宅が多く民家は少なめ。道路に面しているも交通量は少なく静か。ここ数年はコロナ禍の為、就職セミナー等に出向いても職員の確保が大変難しく、現在定員を1名減で運営中。開所時からのベテラン職員を中心に、以前から多くの看取りを行っており、今年度も2人を看取っている。コロナ禍でも家族の思いが叶うような場面を設定するなど、家族として関わり、その人らしい最期を看取るという思いで意識統一されている。介護度が高く重度の方に加え、精神科との連携の必要な認知症の方もあり、幅広いケアを求められる中、毎年事業計画で理念に基づいた目標を掲げ管理者を中心にチームワーク良く取り組まれている。コロナ禍で地域との関わりが途切れているが、今まで築いた繋がりを基に少しずつ広げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念に基づくユニット目標を掲げ、職員間で共有、実践し年度末に振り返りを行い、次年度の課題へと繋げている。	毎年事業計画を作成しており、運営理念に沿って各ユニットごとに年間目標を定めて職員間で共有できるようにしている。新規採用職員に対しては、業務の中で考え方を伝えており評価表で確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会の行事参加や、近所の保育園児との交流を恒例としていたが、どれも行えていない。	以前は交流を続けていたがコロナ禍とあってからは途絶えている状況。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内中学校の職場体験や福祉体験学習、資格取得のための現場実習を継続的に受け入れており、認知症高齢者との関わり方について実践を交えて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行の影響で運営推進会議の開催が難しく、書面での開催を行い、意見交換も含め、活動報告を行っている。	コロナ禍の為定期的に書面開催。町内の関係者の2名は開所当時から続いて協力を得ている。介護保険課と包括は年度ごとに交替で参加。家族関係者を含めて、入所者の状況、行事、研修等の内容を伝え意見を得ている。	より多くの関係者の方に参加していただけるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいていたが、コロナ禍のため書面での開催を行い、活動報告をし、助言を頂いている。	市の介護保険課と包括は年度ごとに交替になるが、運営推進会議には毎回参加があり、専門的な意見を得ている。空き情報など問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を作り、定期的に勉強会を開き、職員の意識、理解を深められるように努めている。実際に事例映像を見ながら、意識共有できるようにしている。	定期的な委員会の開催や研修を行い拘束の無いケアの実践に繋げている。帰宅願望のある方、精神科受診者も多いが、すぐに精神科に繋げるのではなく、対応を検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を作り、定期的に勉強会を開き、意識の向上を図っている。身体拘束に同じく事例映像を使用して、職員全体で共有できるよう勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、必要に応じて相談機関と連携ができるよう協力体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時には十分に説明を行い、不安に思っていることなどは随時確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とは密に連絡を取り、要望や意向を随時確認している。また契約時には外部の相談、苦情対応窓口の紹介も行っている。	利用者懇話会を3か月に1回開催。行事や食事等に関する意見を聞いているが、行事の感想は終了後すぐに聞くようにしている。ユニット便りと担当から様子を伝える手紙を写真入りで送り意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議、ユニット会議を開催し、幅広く職員の意見を聞くようにしている。会議の時だけでなく、職員の意見を聞く機会を設けられるよう努めている。必要に応じて、個別面談も行っている。	定期的な面接は行っていないが、必要と感じた場合時間を作っている。管理者はいつでも意見が言いやすいよう雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善が必要なことに関しては広く職員から聞き取り、相談に応じ、働きやすい就業環境の整備に努めている。また、資格取得を奨励し、法人全体で支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励し、初回の受験料は法人が負担し、受験日も出勤扱いとしている。資格取得後は給与に反映される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松江市グループホーム部会の研修に毎回参加をしていたが、コロナ禍となり参加できていない。ネット環境も整っていないため、オンラインでの研修等も参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時(施設見学時も含めて)から本人の思いや不安など、十分に汲み取れるように聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には随時聞き取りを行いながら不安に思っていること、要望を聞き出し、それに応じて丁寧に説明、対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談や家族からの聞き取りをもとに、ユニットで事前にカンファレンスの場を設け、必要としている支援を相談し、協議しながらより良いケアを模索している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はともに生活している者という意識を常に持ち、利用者とお互いに助け合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事細かに家族への情報提供を行い、交流を持ちながら、家族と職員が協同して利用者を支えていくという関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係の継続を大切にしているが、感染症対策のため外出支援、面会があまりできていない。ドライブに行く際は馴染みのある場所に行っている。	面会は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、予約制で短時間で玄関先や大き目のパネル使用で行っている。理美容については2人の方は行きつけに送迎し、他の方はなじみの店に訪問をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することのないよう人間関係の相性を考慮しながら、職員が間に入りたりして利用者間の交流を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の事業所から要望があれば情報提供をしたり、必要に応じて相談等も対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりを通して、一人ひとりの思いを知るよう努めている。意思疎通の困難な方に対しては、家族に本人の思いを代弁してもらいながら、利用者本位のケアに努めている。	入所時に似顔絵入りの私の姿と気持ちシートを詳しく記入してもらっており、プラン更新時にはアセスメントも替えて計画作成に繋げている。懇話会で意見を聞いたり普段の会話の中での気づきはケース記録に書き留めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に、本人や家族、担当ケアマネ等の関係者から生活歴や暮らしについて聞き取りをし、把握に努めている。アセスメントにセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、望む生活が送れるよう日々の表情、会話から状態を把握し、出来る力を維持、向上できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族への聞き取りから情報収集をし、個別カンファレンスにおいて担当職員が中心となりながら全職員で関わり、その人らしい生活が送れるようプラン作成、実践を行っている。状態に変化があれば、都度見直しを行っている。	モニタリングを2か月に1回、プラン更新も6ヶ月に1回行っている。荷物を持参された時や電話で意見を聞いたり、年1回はプランに対するアンケートも実施している。コロナ禍で担当者会議は難しいが意見が反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や精神面での変化を見逃すことのないよう、個別記録に記入し、全員で確認、把握をしている。その他にも連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに柔軟に対応できるよう勤務ローテーションを工夫したり、受診援助なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員等を中心とした地域住民や、市の担当職員等から必要な情報、助言をいただき、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族に希望を聞き、入居前のかかりつけ医を希望される場合は、継続して受診できるようにしている。また、協力医は月2回の往診の他、緊急時の対応や、随時電話相談にも応じてもらい、連携が取れている。	かかりつけ医を続けることも、往診可能な協力医に変更することもできるが、大半は変更を希望される。協力医は夜間、休日等緊急時の対応や看取りにも協力的。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への定期報告、その時の様子報告も細かく伝え、何か変化があれば早期発見、早期対応ができるよう連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を病院に提出し、入院期間中も病院や家族から定期的に状況を聞き、状態の把握に努めている。安心して退院できるよう退院前カンファレンスへの参加や、家族、病院スタッフへの聞き取りも密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期対応指針を説明し、家族から同意を得ている。終末期を迎えることになった場合は、主治医からの意見も含め、再度説明を行い、事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明し、理解してもらった上でターミナルケアを行っている。	以前から看取り対応をしており、今年度も2名の看取りを行っている。コロナ禍ではあるが最後の2日は家族が付き添う形をとり、職員で見送っている。重度化に合わせて協力医の指示のもと、話し合いを繰り返しながら看取れるように検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに従い、職員は非常招集を含め、各自の役割を適切に行えるよう定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して、火災、地震を想定した総合避難訓練と消火訓練を行っており、過去の事例を教訓とした勉強会も行っている。町内や周辺事業所とも非常時の協力支援体制もできている。	町中で風水害等の自然災害には合いにくい場所ではあるが、いろいろな場面を想定して総合的な避難訓練を定期に行っている。通報や消火器の訓練等も実施したり、緊急連絡網も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重するために、「その人」自身、一人ひとりの理解をしっかりと深め、自尊心を傷つけないように努めている。	言葉かけが気になる場面や方言の使い方が適さないこともあり、その場に合った対応が取れるよう職員間で話している。耳の遠い方の場合、身振り手振りやホワイトボードの使用など意識した対応を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃のコミュニケーションの中で本人の思い、希望を汲み取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のコミュニケーション、アセスメントを通じて「その人」の生活に注目し、「その人」のペースに合うよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援がほとんどできていないが、散歩やドライブに出掛ける時は着ていく洋服を選んで頂けるよう支援したり、施設内行事へ参加する時に、お洒落を楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できること、できないことを活かしながら、食事準備時に分担して作業をしてもらっている。(おかずの盛り付けなど)	管理栄養士がメニューを決め買い物をを行い3食作っているが、対応できない場合は湯煎の物を使用している。重度でペーストの方も多いため、おいしく見えるように工夫したり暖かい物を提供するようにしている。あまり多くはないが、できることを手伝ってもらうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は管理栄養士と協力しながら行っている。食事摂取量、水分量については一人ひとりチェック、記録し情報共有している。摂取量が少ない方は栄養補助食品も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた道具、ケア方法にて介助や声掛けを行っている。必要に応じて歯科往診や訪問指導を依頼し、本人に合った口腔ケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、ADLを把握しながら、その方に合った排泄介助を行っている。オムツを使用されている方、ポータブルトイレを使用されている方がおられる。(重度の方や転倒リスクのある方)	重度でおむつ使用者も多いができるだけ紙パンツにパットで対応するようにしている。尿意の無い方が多いため、早めの誘導と介助で、失敗して不快に感じないようにしている。紙パンツ類はまとめて購入し負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記載し、把握をしながら医療機関と連携して便秘予防に努めている。中には居室内のカレンダーに印をつけてもらうような声掛けも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めずに、本人に聞きながら、その日の体調や気分に合わせて行っている。ただ一般浴槽しかないため、浴槽につかれない方は、足湯をしたり等工夫をしている。	大きめではあるが家庭用浴槽の為重度の方には中に入れない方も多くシャワー浴対応としている。シャワー浴希望の方もいる。男性介助に抵抗のある場合は、勤務調整をして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間座りっぱなしにならないよう声掛けし、随時休憩を促している。夜間は安眠できるよう音や光、室温など配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬剤師と連携を取りながら服薬支援を行っている。お薬の情報シートを個人ファイルに入れて、情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症の対策で施設の入出りを制限しているため、外出する機会がかなり減少してしまっている。施設内でも楽しんで頂けるようお菓子作り、カラオケ、ゲーム等計画を立てて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の対策で施設の入出りを制限しているため、外部の方とは交流できていない。感染症の対策を十分にした上で、散歩やドライブなど行っている。	コロナ禍で外出の機会はかなり減っているが、桜や紅葉を見に出かけている。人がいない場所では車から降りて楽しむ場合や、車内から景色を眺める場合など、その時に合わせた対応としている。施設前の駐車場でお茶したり、裏のテラスで干し柿をつるしたり、外気に触れる機会を作っている。	少しずつでも外出の機会が持てるよう検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、ご自分で現金を管理し、使用できるようにしている。その他預り金として施設管理の小口現金もあり、必要に応じて使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、あらかじめ家族に確認をとってから連絡できるようにしているが、中には携帯を使用したり、手紙を送ったりされる方もおられ、自由にやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感をとり入れる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く過ごせるよう音、室温、光の調整は十分に配慮している。玄関、廊下、リビングにはなるべく季節感を取り入れるよう花を飾ったり、行事のポスター、利用者の作品等を展示している。	町中の為外の景色から季節を感じにくい玄関先や施設内には季節の花や鉢植えが置かれている。周辺は事業所が多いが交通量は少なく比較的静か。食堂に続いて畳の部屋があるが、重度の方が多いため使用頻度は少ない。コロナ禍となり特に換気に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や、人間関係を考慮して、共有空間での席の配置には気を配っている。随時必要があれば席替えもしている。気の合う利用者同士の交流や、居室間の行き来など、希望があれば支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から馴染みのある物、使い慣れたものを置けるようにし、入居前に家族と相談し、持ってきて頂くようにしている。本人とも相談しながら居心地よく過ごせる空間作りを行っている。	収納スペースがあるためあまり多くの物は置かれていない。車いす使用の方は動きやすさを優先。小さい仏壇、テレビ、座椅子、タンスや物入が置かれ、壁には写真や誕生日の色紙などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」、「わかること」を把握し、安全面に配慮しながらわかりやすく貼り紙をするなど、工夫している。		